真宗本願(東本願寺)両堂再建関係年表 ―明治度再建を中心に―

年(西暦)	事項
承安 三年(一一七三)	親鸞聖人、日野有範の子として生まれる。
建仁 元年(一二〇一)	親鸞聖人、比叡山を出て六角堂に参籠し、法然の弟子となる。
元仁 元年(一二二四)	親鸞聖人、この頃『教行信証』を著わす。
嘉禎 元年(一二三五)	親鸞聖人、この頃関東から京都に移り住む。
弘長 二年(一二六二)	親鸞聖人没する。
文永 九年(一二七二)	親鸞聖人の墓を吉水の北辺に移し、親鸞聖人の木像を安置した廟堂を建てる(真宗本廟の創設)。
永享一〇年(一四三八)	覚如上人、東国門徒の承認を得て廟堂留守職となる。
延慶 三年(一三一〇)	覚如上人から啓如上人の頃、廟堂を寺院として本願寺阿弥陀如来を安置、本願寺となる。
長禄 元年(一四五七)	存如上人、この頃御影堂・阿弥陀堂の両堂造営を進める。
寛正 二年(一四六一)	蓮如上人、本願寺を建く。
文明 三年(一四七一)	蓮如上人、『御文』による教化を始める。
七年(一四七五)	延暦寺僧徒、本願寺を破却。
一〇年(一四七八)	蓮如上人、越前に下り吉崎に坊舎を建てる。
明応 八年(一四九九)	蓮如上人、吉崎を去り河内の出口に移る。
永正 九年(一五一二)	蓮如上人、山科に移り両堂を中心とする本願寺造営を始め、六年後に完成する。
天文 元年(一五三二)	蓮如上人没する。
二年(一五三三)	證如上人、大坂石山の坊舎を本願寺と定め、両堂をはじめ堂舎造営を始める。
元亀 元年(一五七〇)	顕如上人、織田信長との石山合戦に入る。
天正 八年(一五八〇)	正親町天皇の勅により、本願寺顕如上人と織田信長と講和する。
一三年(一五八五)	顕如上人、准如上人は石山を退去。教如上人は抗戦を主張するがやがて退去。まもなく石山本願寺は焼失する。
一九年(一五九一)	豊臣秀吉、大坂天満の地を本願寺に寄進し、顕如上人による両堂造営始まる。
文禄 元年(一五九二)	豊臣秀吉、京都七条堀川の地を本願寺に寄進し、顕如上人による両堂造営始まる。
二年(一五九三)	顕如上人没する。教如上人、本願寺を継ぐ。
慶長 七年(一六〇二)	豊臣秀吉、准如上人の本願寺法職を認可。このため教如上人は退隠する。
八年(一六〇三)	徳川家康、京都東六条の地を教如上人に寄進し、翌年から東本願寺の両堂造営始まる。(東西分派)
元和 四年(一六一八)	東本願寺両弥陀堂竣工する。
寛永一八年(一六四一)	〈以下、「東本願寺」を省略〉
五年(一六四八)	御影堂竣工する。
明暦 四年(一六五八)	阿弥陀堂の修復工事終了する。
寛文 元年(一六六一)	徳川家光、東洞院通以東六条七条の間の地を東本願寺に加増する。
一〇年(一六七〇)	御影堂再建成る(明暦・寛文度再建)。
天明 八年(一七八八)	阿弥陀堂再建成る(明暦・寛文度再建)。
寛政 九年(一七九七)	京都大火により両堂・経蔵・学寮などを焼失する。
一〇年(一七九八)	御影堂再建成る(寛政度再建)。
文政 六年(一八二三)	阿弥陀堂再建成る(寛政度再建)。
天保 六年(一八三五)	山内出火により両堂・諸殿・大門・鐘楼などを焼失する。
安政 五年(一八五八)	両堂再建成る(文政度再建)。
万延 元年(一八六〇)	京都大火により両堂・諸殿などを焼失する。
文久 元年(一八六一)	仮両堂再建成る(安政度再建)。
元治 元年(一八六四)	親鸞聖人六百回御遠忌を勤める。
明治 四年(一八七一)	蛤御門の変により両堂・諸殿・学寮などを焼失する。
七年(一八七四)	坊官制を廃止し、寺務所を開設する。
九年(一八七六)	宗名を「真宗」と公称することを認可。
一二年(一八七九)	親鸞聖人に「見真大師」の諡号が贈られる。
	厩如上人、両堂再建を発示する。
	総会所の移築成る。
	再建用材や毛綿の歇納が始まる。
一三年(一八八〇)	御影堂再建の棟梁に伊藤平左衛門、阿弥陀堂再建の棟梁に木子稠蕭を任ずる。
	両堂の新始式を行う。
	再建事務局を開設する。
	七条烏丸西の再建工作場を開設する。
一四年(一八八一)	両堂の地築始まる。
	真宗東本願寺派から「真宗大谷派」へ改称すること認可。
	「非常事務取扱規則」を定め、消防体制を確立する。
	三河志貴野に工作支場を開設し両堂の瓦を製作する。
一五年(一八八二)	御影堂の上棟式を行う。
	「慧燈大師」の諡号が贈られる。
	名古屋に工作支場を開設し、御影堂の屋根組を製作する。
	京都御所からの、余水を防火用水に引く工事が始まる。
一六年(一八八三)	越後の尾神嶽で用材運搬中に雪崩事故が発生し、一時に二七名の犠牲者を出す。
	大学寮講堂の再建なる。
一七年(一八八四)	御影堂の立柱式を行う。
一八年(一八八五)	相続講の制度が発足する。
二二年(一八八九)	御影堂の上棟式を行う。
	厩如上人が退隠し、現如上人が継職する。
二三年(一八九〇)	阿弥陀堂の立柱式を行う。
二五年(一八九二)	濃尾地方に大地震発生し、阿弥陀堂上棟式を延期する。
二七年(一八九四)	阿弥陀堂の上棟式を行う。
二八年(一八九五)	厩如上人没する。
三〇年(一八九七)	両堂再建成る(明治度再建)。落慶の遷仏・遷座式を行う。
三一年(一八九八)	琵琶湖疏水からの防火用水工事が完成する。
四〇年(一九〇七)	御影堂門の起工式を行う。
四一年(一九〇八)	現如上人が隠退し、彰如上人に継職する。
四二年(一九〇九)	御影堂門の立柱式、阿弥陀堂門・鞘の門の起工式を行う。
四三年(一九一〇)	御影堂門・阿弥陀堂門・鞘の門の上棟式を行う。
四四年(一九一一)	黒影堂門・白銅院・阿弥陀堂門・鞘の門が竣工する。
大正 五年(一九一六)	親鸞聖人の六百五十回御遠忌を勤める。
七年(一九一八)	総会所が再建成る。
一二年(一九二三)	御影堂門前の噴水の通水式を行う。
	現如上人没する。
	立教開宗七百年記念法要を勤める。
平成一〇年(一九九八)	蓮如上人五百回御遠忌。
二三年(二〇一一)	親鸞聖人七百五十回御遠忌。